



役場職員だったころの二郎さん。毎年、同僚たちとの旅行を楽しみにしていたそうです



赤井観音堂のお世話をしている菊川さん

れ添った夫を突然亡くしました。「ずっと悲しみが癒えなくて。おかんのさんさんに心の内を聞いてもらいながら、少しずつ笑顔をとり戻してきました」と菊川さん。84歳で亡くなった夫の二郎さんは長年、町の職員として勤務し、現役時代は毎日徒歩で出勤するほどの健康体でした。毎月届く「広報ましき」を隅々まで読み、2021年6月号のリニューアルによる表紙写真が、地元の赤井水源近くの風景だったことを誰よりも喜んだそうです。「主人は『わがまち散歩』をいつも楽しみにしていました。シャイな人だったけれど、自分の遺影がこうして紹介される

### 花を愛で育てて

ことに、天国であたふたしているかもね」と菊川さんは笑顔をみせてくれました。

赤井地区を歩いていると、自宅の庭に数々の花が咲き誇るお宅を見つけました。一年中、花作りに余念がないというのが、「ヘアースロン城本」を営む城本峰子さんです。育てている花の種類は数知れず。特設の温室で苗作りもするという城本さん。「今はお花が一番少ない季節。でもこれから春になるとバラやチューリップが咲き誇ります」とうれしそうに笑顔を見せます。

城本さんの家の中では40鉢ほどのコチヨウランが育っています。「冬は一日中暖房を入れ、夏は涼しい温度を保ってあげます。電気代はかかるけど、しっかりと芽吹き始めて期待に込めてくれるんです。命が輝いているんだなあ」と感動します。そんな城本さんは料理も大好きだと言います。「わが家の定番がロールキャベツ。たくさん作っておいて冷凍しておくの。一度に40個ほど作ったりします。スーパード大きなキャベツを見たら作らずにはいられない」と笑います。

### 散歩の終わりに

「春になったら、またいらつしやい。花を見ると心が穏やかになるからね」と言って城本さんは見送ってくれました。

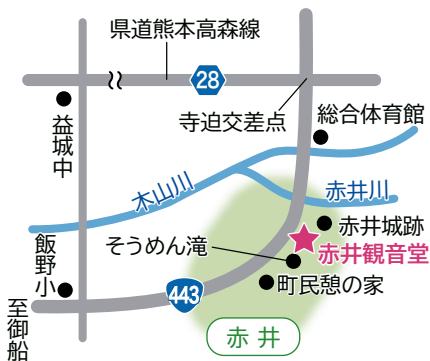


城本さんが育てている花たち。春の花盛りの頃には城本家は花屋敷になります

どんどやの残り火の温かさに、寒さで縮こまった心と体がほぐれていききました。「また来なっせね」と温かく見送ってくれる人たちの笑顔に背中を押してもらいながら、日だまりの中に膨らみかけた花のつぼみを見つけると、元気が湧いてきます。もうすぐ春ですね。今日の出会いに感謝。



### 赤井編



ヘアースロン城本を営むかたわら花作りに余念がない城本さん



レシビの定番のロールキャベツはホワイ トソース仕立て。トマトジュースやソー スも手作り